

重量感溢れるゴツゴツと岩稜の盛り上がりを見せる黒い岩塊が五竜岳である。ガスの切目から時々現れる岩峰を眺めながら、屋根の下30mぐらゐのガラガラ道の登り坂を勢い込んで歩く。ガスは次第に濃くなり、風向も悪し。這松もぬれてどうも天気は悪くなりそうだ……。2つの岩峰も登らず黒部側を巻く。7:51ヒックを越えてから最後の厳しい岩稜の急登に入り、霧雨にぬれた大きなスラブ状の岩を次々へつり、すり抜け、よじ登って8:03頂上道標にアタックする。霧雨はすっかり展望を奪い、楽しみにしていた鹿島槍ヶ岳は見えれず残念。……

行き

1976 昭和51年8月11日(水)夜行
名古屋駅発 急行つがひ 23:45発
白馬着 5:16

帰り

8月13日(金)
神城発 急行 12:47乗車
松本着 14:12 のりかえ 急行 14:22発
名古屋着 17:40

登山者

谷田幹夫 S7.11.16 ザック重量 15kg

奥村光信 T14.3.20 " "

(奥村実兄) 尾崎久次 T12.1.2 " "

コース

第1日 8月12日(木) 快晴 20℃ 朝無風
白馬頂上快晴14℃ 風速10m/s以上
猿倉→白馬尻→葱平→白馬岳→
杓子岳→白馬鑓ヶ岳→天狗山荘→
不帰ヶ岳→唐松岳→唐松山荘(泊)

第2日 8月13日(金)
唐松頂上山荘→五竜小屋→五竜岳
雨のため縦走を断念し 遠見尾根を下る。
地蔵平駅よりテレキャビンで下り、神城駅へ
神城駅より帰宅
(兄は唐松山荘より八方尾根を下山して帰る。)

費用

缶ビール140円 バス500円 小屋代3200円 テレキャビン600円 ビール200円
計 4640円/人

この先、縦走する気迫も消滅してしまう。「昨日あんなに良かったのになあー」唐松山荘の天気図を昨夜見たが、どうも3日間は何復ない様子だ。思い切って下山すること、再度の到来を誓って遠見尾根から帰ることにする。(あとで判ったが、今年の異状天候で17日近雨、鍾乳洞事件等あり。)

天気を心配しながらも、急ピッチで歩く。調子がよければ、今日は新成山荘まで行ける筈だ。

朝からガスが立ち込めて、右に剣ヶ峰。周辺の山々は墨糸糸のようにボヤリしている。

五竜小屋にたどり着く。霧雨も止み、一寸休憩してから少し休んで白岳に登り、遠見尾根へのコースを歩く。単独の若人、小遠見まで一緒に歩く。時々降っては止む。五竜も時々姿を見せてくれる。眺望は下るに従って良くなる。下界は時々晴れて見えるが？……

登って来る人からテレキャビン利用のことを知り、ゆとりがでる。地蔵の頭で鐘入ヶケルンを見てから直ぐ下の遠見小屋へ立ち寄り、地蔵平駅へ着く。雨でゴテゴテにぬれた道で濡れた靴を洗ってからテレキャビンで下降する。ステキな展望だ。800m下降 10分で1人500円+100円

駅前の通りへ急いでビールを買に行く。

名古屋、松本 14:12
17:40 ← 14:22

神城 12:30着 12:47発 急行乗車

